

## 「LOOK」



2008（平成20）年11月1日鑑賞&lt;テアトル梅田&gt;

監督：アダム・リフキン

撮影監督：ロン・フォーサイス

2007年・アメリカ映画・102分

配給／トルネード・フィルム、AMGエンタテインメント

## &lt;すごい試みに拍手！&gt;

私がアダム・リフキン監督の作品を観たのは、この『LOOK』がはじめてだが、3000万台以上の監視カメラが設置され、毎週40億時間以上の映像が記録され続けているというアメリカで、監視カメラからの映像のみで映画を作るといふすごい試みをやり、アダム・リフキン監督とロン・フォーサイス撮影監督は見事にそれを成功させている。だって監督業が面白いのは、さまざまな構想を自由に演出できることであり、撮影監督が面白いのはあらゆる現場でカメラワークの技術を如何に発揮するか能力が試されるため。したがって、固定された監視カメラによって機械的に録画される一定の空間だけでの演出は監督と撮影監督にとってかなりイライラがつり、ストレスがたまる作業のはず。そんな本来の自分の能力発揮の場とは180度違う、演出と撮影に懸命に取り組み、ここまでの完成品をつくりあげたアダム・リフキン監督とロン・フォーサイス撮影監督に拍手！

## &lt;映像に記録された赤裸々な真実とは？ その1、その2&gt;

人間は誰にでものぞき見趣味がある。アルフレッド・ヒッチコック監督の『裏窓』（54年）やD・J・カルーソ監督の『ディスターピア』（07年）はそんな人間の深層心理を描いたもの。したがって、試着室やトイレに設置された監視カメラに記録された映像は、そんな人間の深層心理を満足させるに十分。ちなみに、この映画には記録されていないが、公園に設置された監視カメラは夜になれば、公園の中でエッチする赤裸々な映像をたくさん記録しているはず・・・。

そんな人間の深層心理とエッチ心を満足させるべく、アダム・リフキン監督が最初に描くキャラクターは、試着室の中でとっかえひっかえ服を試着し、あげくの果ては服を着たまま出ていってしまう不良女子高生のシェリーとホリーの姿。私の目には彼女たちは『ワイルドシングス』（98年）のネーブ・キャンベルとデニス・リチャーズたちと同じようなイメージ（『シネマルーム1』3頁参照）。さらに、その後シェリーが真面目な英語教師バリー・グレイブスを誘惑していく姿をみると、まさに『ワイルドシングス』と同じ展開。グレイブスは臨月間近の妻、ジョアンと幸せな結婚生活を送っており、何度もシェリーのあからさまな誘惑を拒否していたが、ついにある日学校の駐車場で待ち伏せしていたシェリーの下着まで脱いでいく誘惑に負けた結果・・・？

こんなシェリーの遊び心（？）が、その後の強姦による告訴というストーリーを生んでいくわけだが、もしそれらの事実が何の脚色もなく無機質に監視カメラの映像に記録されていれば・・・？

## &lt;映像に記録された赤裸々な真実とは？ その3、その4&gt;

職場の監視カメラについてのアメリカの法規は興味深い、その詳細はここでは省略。近い将来、きっと日本でもこのアメリカと同じような法案の審議が開始されることだろう。

そんな職場の監視カメラが威力を発揮するのが、ショッピングセンターのフロア・マネージャーであるトニー・ギルバートの女性従業員に対するエッチ攻勢の数々。とは言っても、彼は決して悪い人間ではなく、ただ性欲が強くかつ女性へのサービス精神が旺盛なだけ・・・？ちなみに私の周囲にもかつて1人だけギルバートのような男性がいたが、今はどうしていることやら？

もう1つ、職場の監視カメラが映し出すのは、深夜のコンビニでアルバイトをしているロック・スターを目指すウィリーと彼の悪友カールの姿。コンビニのオーナーがこんな映像をチェックすれば、ウィリーはたちまちクビになるはず。しかし、アダム・リフキン監督が描く『LOOK』のストーリーでは、ウィリーは客としてコンビニに入ってきた指名手配中の2人組の強盗を警察に通報したため、表彰状を受けとる立場に。

## &lt;映像に記録された赤裸々な真実とは？ その5&gt;

日本のアホバカなマスコミは、今麻生首相がホテルのバーを盛んに利用していることに目をつけて攻撃を続けているが、ホテルのバーが高いか安いかなどというのは全くナンセンスな議論。もっとも、この映画のようにホテルのバーのあちこちに監視カメラが設置されていればホテルのバーでの密談は不可能だから、麻生総理の利用は激減するはず。

美しい妻レイズと2人の子供に恵まれたベンと黒人男性のジョージは共に弁護士だが、仕事内容は両極端。そんな2人がよく利用するのがホテルのバーだが、そこでの真面目な話の後の展開にビックリ。アメリカでは同性愛がここまで広がっているわけだ。ホテルにはエレベーター内にも廊下にも監視カメラが設置されているから、バーを出た後の2人の行動はパッチリとそのカメラが記録。その内容はここでは一切触れないので、是非あなたの目で。

## &lt;映像に記録された赤裸々な真実とは？ その6&gt;

私は長い間某損害保険会社の顧問弁護士をしているから、毎月1度はその会社に赴いて法律相談を受けている。この映画をみると、そんな損保会社の社員の仕事ぶりも監視カメラが全て記録していることを知りビックリ。そのカメラに映るのは、同僚から毎日いたずらを仕掛けられいじめを受けているマーティ。

女子高生シェリーの英語教師グレイブスへの性的誘惑の一部始終が学校内の隠しカメラに記録されていたのと同じように、マーティのデスク周辺を記録している隠しカメラの映像を確認すれば、職場のいじめ問題は一挙に解決するはず。しかし、アダム・リフキン監督のこの映画はそこまでの方向性は示さず、カメラが捉えた映像のみを客観的にスクリーン上に見せるだけ。そんな職場でのストレスまみれのマーティのストレス解消法は、ちょっとヤバい。そしてそれも、某所の監視カメラがパッチリと・・・。

## &lt;映像に記録された赤裸々な真実とは？ その7&gt;

一瞬これはホントに監視カメラが捉えた映像？とビックリするのが、車のテールランプが切れていることをとがめられて、警察官から免許証の提示を求められたエースとロンの行動。彼らの車のトランクに入っていたのは、実は彼らが金を奪った被害者の女性。したがってこれが警察官にバレたら大変。そう考えたエースとロンは、何と警察官のスキをつけて拳銃を奪い、警察官を射殺したうえ逃走することに。そんな彼らの車はあるビルの5階の駐車場に止められたが、この駐車場も1台のカメラがずっと録画中。

さらに、今や警察官殺しという大罪を犯したエースとロンはウィリーがアルバイトしているコンビニの中に入ったため、その行動一切も録画されることに。その結果起きた、ド派手な警察官とのカーチェイスの結末は・・・？

## &lt;迫られる選択は？&gt;

何事もキレイ事の議論でごまかしてしまう日本と異なり、何事も本音で語るアメリカではプライバシー保護のための監視カメラの設置に反対か、それとも安全を守るために、監視カメラの設置に賛成かの選択の結果、71%が監視カメラの設置に賛成しているらしい。その結果①アメリカ人は1日200回以上監視カメラに撮影されている、②37の州が更衣室（試着室）やトイレに監視カメラを設置することを許可している、とのことだ。つまり2001年の9・11テロ以降アメリカ人は安全と引換えにプライバシーを捨てたわけだ。

さらにこの映画のパンフレットには、各種の監視カメラに関するデータがいっぱい。ちなみにロンドンでは400万台以上のカメラが、ほぼすべての通りの角に設置されており、その数は15人に1台の割合であるとのことだが、さて日本では・・・？この映画をみると、監視カメラが生み出す人間ドラマには実にさまざまなものがあることがよくわかる。もちろんこの映画における監視カメラが捉えた映像は「つくりモノ」だが、ホンモノの監視カメラの映像にはこれを超えた物語がいっぱい詰まっているはず。日本ではまだまだアメリカやイギリスのように監視カメラの中で生きていく生活は考えられないが、近い将来監視カメラかそれともプライバシーかの二者択一の選択が迫られるはず。

ちなみに刑事事件における取り調べのすべての可視化を主張している弁護士たちは、これについてどんな選択をするのだろうか？私には、それも興味深いところだが・・・。